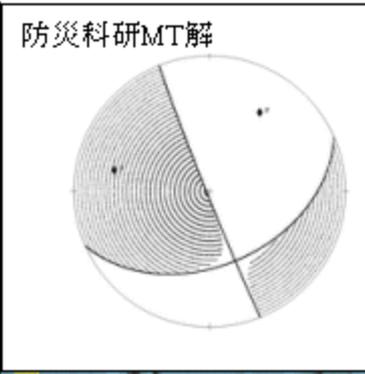
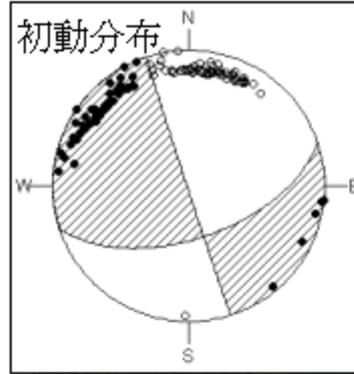


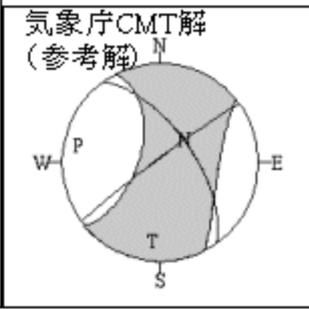
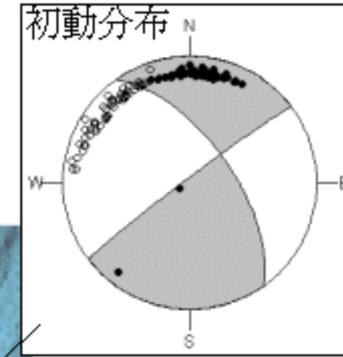
紀伊半島南東沖の地震活動のメカニズムについて

前震(M6.9)、本震(M7.4)のメカニズムは、CMT解などからは南北圧縮の逆断層型と推定される。また、最大余震(M6.5)も同様なメカニズムと推定される。

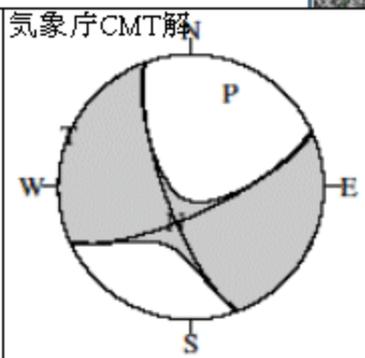
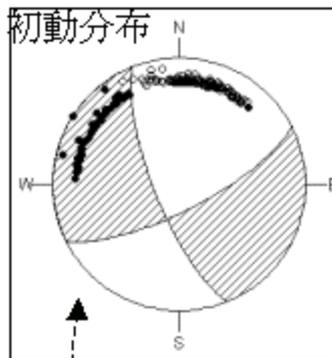
一方で、北西側に活動が伸びている領域(図中(A))の活動については、気象庁、防災科研のモーメントテンソル解析などから横ずれ型の地震であることが推定される(①、②)。また、これらの活動の南東延長線上の領域(B)でも同様に横ずれ型のメカニズムが見られる(③)。



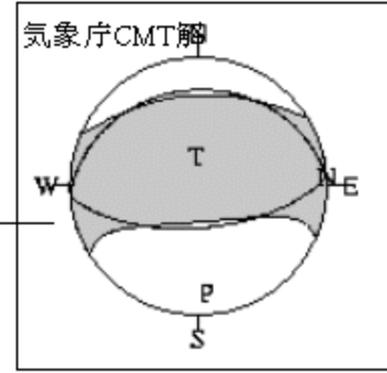
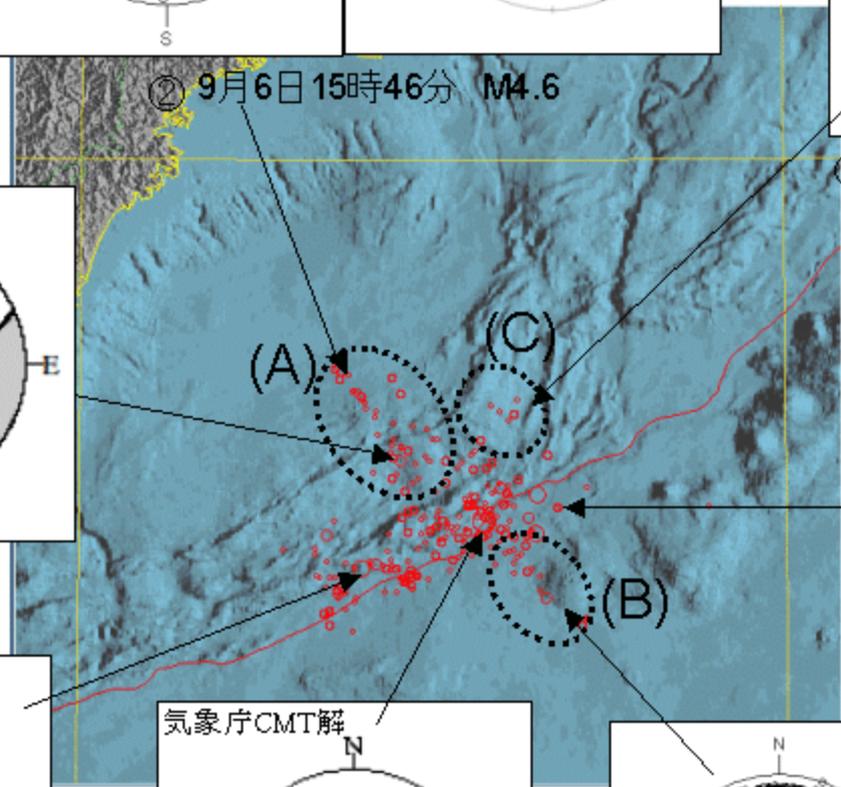
② 9月6日 15時46分 M4.6



④ 9月8日 5時17分 M4.8

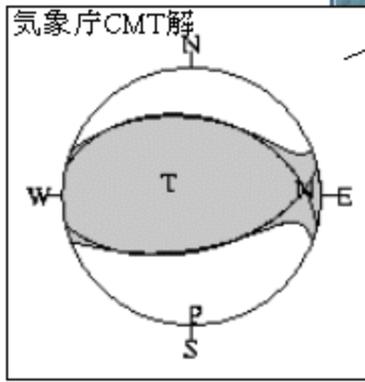


① 9月6日 5時30分 M5.9



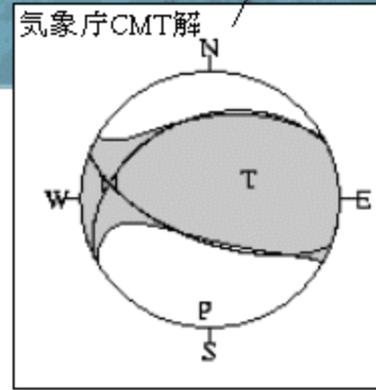
9月8日 23時58分 M6.5(最大余震)

※対応するCMT解の節面を重ねて表示したもので、初動だけで決まったものではない。②、④も同様。

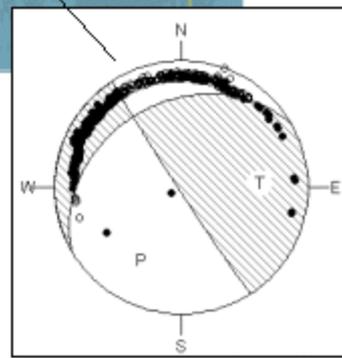


9月5日 19時7分 M6.9(前震)

気象庁作成



9月5日 23時57分 M7.4(本震)



③ 9月8日 23時40分 M5.4

北東側の少し離れた領域(C)で見られる地震活動では、初動の分布が(A),(B)などとは全く逆になっており、かなり異なるメカニズムの地震が発生していることが推定される。

※中央は9月5日~20日の震央分布(M3.5以上)